

田舎の古民家での～んびり



ゆったりとした空間が広がる「コミニカ」の部屋

三朝・俵原の体験施設「コミニカ」

2年目オープン

三朝町俵原の古民家 見貞明会長)が地域の再生した田舎暮らしを体験施設「コミニカ」がことしの営業を始めた。三徳地域協議会能運管。認知度はまだ低

く、同協議会は「自然豊かな山里でのんびり過ごしてほしい」と利用を呼び掛けている。

鳥取 ワイド

情報はこちらへ

本社
☎0857(21)2880

中部本社
☎0858(26)8311

東伯支局
☎0858(53)0671

但馬支社
☎0796(82)4541

Eメールアドレス
houdou@nnn.co.jp

青谷両町に接する4世帯、9人の小さな集落。高齢化が進み、大半が70代で集落の維持が難しくなっている中、同協議会は空き家となっていた古民家に着目。「地域再生の第一歩として建物を活用したい」と3年前から所有者と交渉を進め、貸し出しの了承を得た。

古民家は木造平屋建てで、築約80年。8畳4部屋と6畳2部屋、風呂、トイレなどがあり、玄関と炊事場は土間になっている。所有者が手入れを続けていたため傷みは少なく、同協議会はNPO未来と協力して畳や網戸の張り替えなどをし、屋内にあった年代もののタンスや机はそのままにして昨年7月に「コミニカ」としてスタートさせた。

昨年は雪で閉館した11月までの期間に外国人を含む2組7人の家族、グループが利用。周辺は広葉樹の森が広がり、牧場や湿地帯、名所旧跡などもあり、滞在しながら豊かな自然が満喫できる。食事は自炊で、庭でバーベキューもでき、利用者は「非日常の生活で心が癒やされた」などの感想が聞かれたという。

同協議会は、壊れているかまどやいろいろも改修する計画で、より強くレトロ感を演出。利用者や住民との交流事業なども考えている。能見会長は「何もない、を楽しんでほしい。宿泊、あるいは日中の滞在で自然や住民と触れ合うことであるの活力が生まれる。企業研修などでも利用してもらえれば」と話している。

宿泊は大人が1泊3500円、子ども千円。日中滞在は1人千円。問い合わせは電話0858(43)1939、同協議会へ。

(前田雅博)